

私は「恩師」という言葉を聞いて、一番に思い浮かべる人が一人います。それは、中学校三年間を担任してくれた先生のことです。その先生はとにかく愛に溢れた人でした。

先生は国語の先生でした。でもそれ以上に、道德の授業にも力を入れてくださっていました。私は小学校の頃から授業として道徳的な学習をしていましたが、ずっと心のどこかで“道徳は綺麗事だ”と思っていました。学んだからといって明日から役に立つわけでもないし、将来明確に何かに使えるわけでもない。なのに先生は熱心に道德教育をしてくださりました。

元々私は薄情な人間だったと思います。何をするにも自分の感情を先に考えていたし、人の嬉しそうな顔や喜んでいるところを見ても「ああ、そんなことがあったんだな。」と感じるだけでした。しかし、今では友達の幸せそうな顔を見るだけで満たされた気持ちになったり、人の気持ちに共感できるようになったりしました。私の人格を、人生を、まるごと変えてくれたのは間違いなくこの先生だと思っています。

中学校三年間、先生によく「感動しなさい。」と言われていました。皆さんが「感動」という言葉を聞いてはじめて思い浮かべることは何ですか。私は、“泣く”ことだと考えました。しかしそれは違いました。先生が言う感動とは、文字通り“感じて動く”ことだったのです。深く考え、感じとり、そして動く。これが人生を豊かにするための方法だということです。正直、当時の私にはその言葉の意味がピンと来なかったし、私だけでなくクラスの大半の生徒が上手く理解出来ていないような様子でした。それは先生にも伝わったようで、「まずは私から、よく、感動してみますね。」と一言。

それから先生は「感動証書」というものを作ってくれました。B8サイズほどの厚紙に大きく書かれた“感動証書”の文字。裏面は白紙で、そこに私たちの日々の小さな頑張りや良い行動などを先生が見つけて褒めの言葉を書いてくれました。先生が私たちの行いに“感動”するたびに感動証書を貰えるという、不思議なシステムが確立されたのです。英検に合格した時、行事で役割を全うした時、授業中の態度が良かった時、一生懸命テストに取り組んだ時。なんでもないようなことにでも、感動証書は送られます。先生は一瞬たりとも私たち生徒のことを見逃しませんでした。日に日に増えていく感動証書に加え、自分で自分を認める気持ちも高まっていきました。

たくさんもらった感動証書の中でも、一つ心に残っているメッセージがあります。それは中学2年生の時。わたしが、友達の困った様子を見てとった行動に送られた「何も言わずとも、自分にできることを探せるその心の優しさがあなたの長所だなあと、しみじみ感じています。毎日の積み重ねで人生が変わります。」という言葉です。こんなにも自分の存在を認めてくれるような言葉に生まれて初めて出会いました。心がほくほくしたあの気持ちを今でも忘れません。

自分を認める気持ちが高まれば、自然と他の人を取る行動も変わってきます。そうすればまた、それは自分に戻ってくる。愛のある行動は、愛のある行動しか呼びません。実際クラスの皆が感動証書を貰いだしてからというもの、学級の雰囲気は暖かく、柔らかいものになりました。高校受験の時も、先生は変わらずずっと私の考えと意思を認め、尊重してくれました。受け入れてくれることがどんなに幸せなことか、私はこの中学校三年間で身をもって知ったのです。

私は先生から、無償の愛と、人を大切にすることの重要性を学びました。「人にしたことは自分に返ってくる」と言いますが、まさにそうなのかもしれません。今私の周りには、私自身の出来事に対して自分のことのように一緒に喜んだり悲しんだりしてくれる友達や先輩、後輩がいます。本当に愛おしくてたまりません。私も友達の嬉しそうな顔を見ただけで、自分のことのように嬉しいし、それだけで自分も満たされるのです。自分にもこんな風に人を想える気持ちがあるということに気付かされた先生には頭が上がりません。そして、綺麗事に思えることこそ、どんなに大切なことか。今の私ならわかります。その「綺麗事」と言われることの中にこそ、本質的に大切でかけがえのないものがあるのです。そこから目を背けていては大事なものを逃がしてしまいます。いつかは私も先生のように自分以外の人にたくさんの愛を分け与えられるような人になりたいと思っています。また。自分にも相手にも、誠実でありたいです。

私が一番大切にしている言葉であり、人生のスローガンでもある「感動」。これからもたくさんを経験をし、そのたび深く考え、感じ取り、そして最後にはきちんと行動に移したいです。